

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

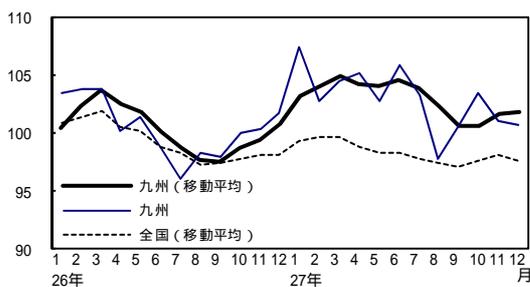
	前回(平成27年11月)	今回(平成28年2月)	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、 <u>足踏み</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10～12月期には、輸送機械は、普通乗用車が海外向けで堅調となり、増加した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD)が不調だったこともあり、減少した。はん用・生産用・業務用機械は、水管ボイラ等で減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	24.5	6.0	9.7	8.5	0.3	2.6
電子部品・デバイス	12.3	8.5	3.9	8.7	11.9	8.6
はん用・生産用・業務用機械	11.2	5.9	2.5	1.2	5.8	1.4
食料品	9.6	3.4	0.4	1.5	3.9	0.3
化学・石油石炭製品	8.3	7.5	1.1	3.2	5.9	2.7
鉱工業	100.0	3.9	1.2	3.0	2.4	0.4

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

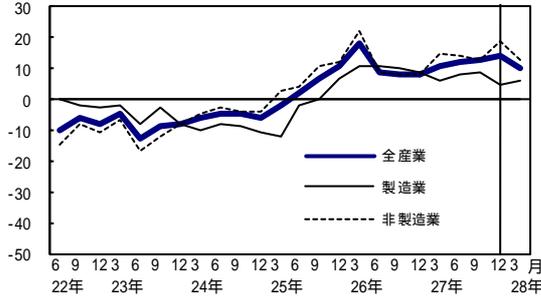
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10～12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

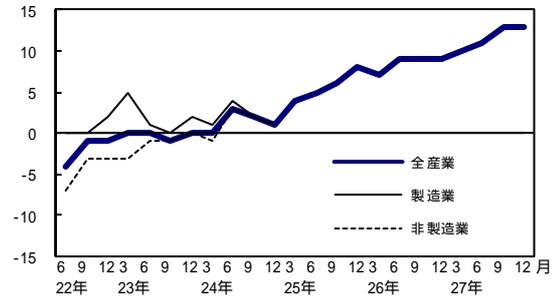
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



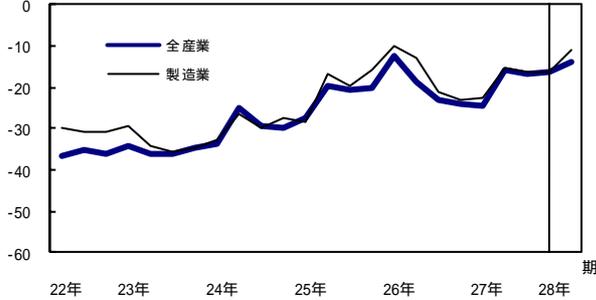
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



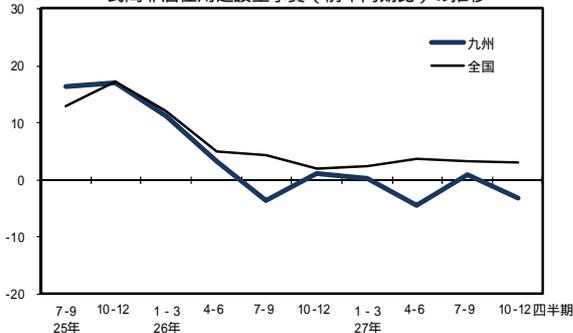
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「新興国経済の減速などから海外向けの生産はやや弱含みながら、国内向けは持ち直し傾向にある。個人消費は飲食料品や宝飾品等の販売が増加するなど、緩やかながら持ち直してきている(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	11.9	29.9(0.8)
製造業	12.8	72.4(0.7)
非製造業	11.1	5.6(0.8)

(備考)1.()は前回(9月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.2%減、11月は同1.9%減、12月は同0.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額

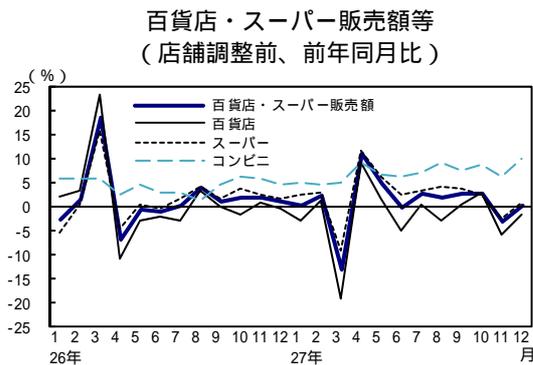
百貨店は、10月は、中国の国慶節で訪日客が増加し、高額品の動きが良かったことで、前年を上回った。11月は、暖冬の影響で冬物衣料が低調で、前年を下回った。12月は、暖冬で引き続き衣料品が不調で、前年を下回った。

スーパーは、飲食料品の動きが良く、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、43.8となり前月より4.6ポイント低下した。

「売上自体は悪くないが、生鮮食品などの単価高騰などがあり、景気が良いとは言えない (都市型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が増加した。



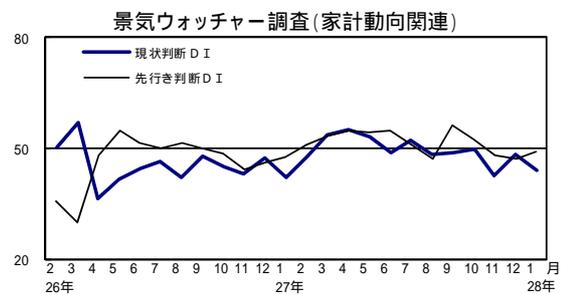
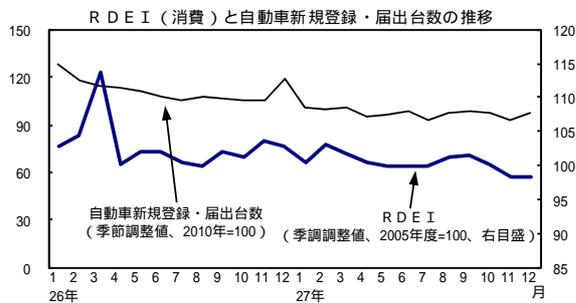
	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	2.0	1.2	1.9	0.0
百貨店・スーパー(*2)	0.2	2.5	3.3	0.1
百貨店(*2)	1.9	2.8	5.8	1.9
スーパー(*2)	0.2	2.2	2.4	0.7
コンビニ(*2)	8.3	8.7	6.2	10.0
乗用車(*3)	12.4	8.1	11.6	17.1
(季節調整値)(*3)	0.8	1.2	4.8	5.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

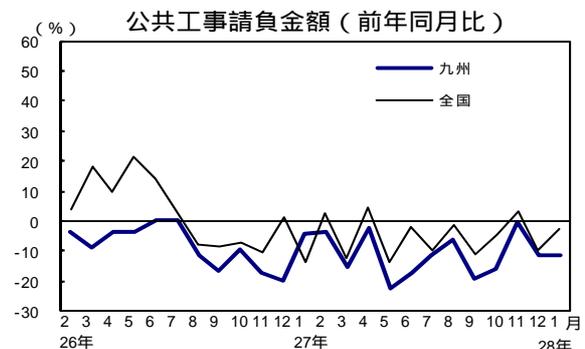
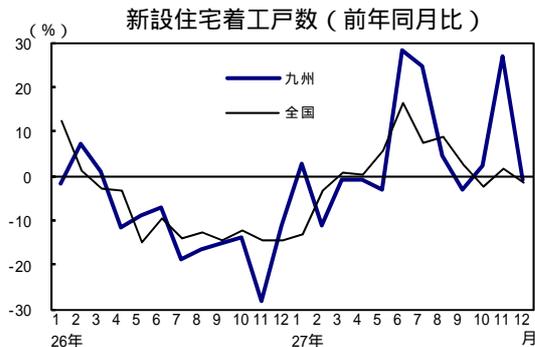
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

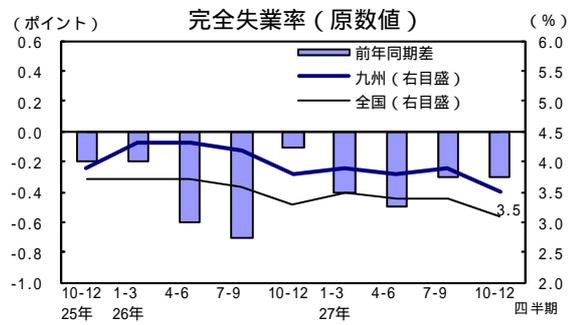
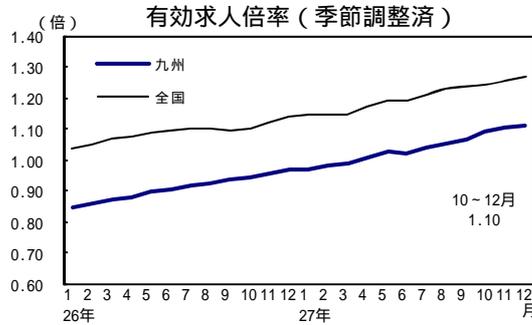


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

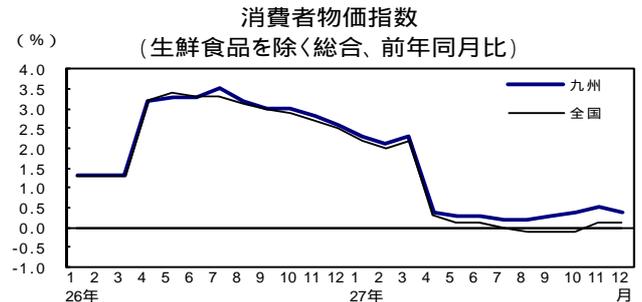
「派遣登録者数が減っている。求人誌等では直接雇用の求人が増えている。派遣登録の予約を入れても採用が決まってキャンセルする人が増えた(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	175	184	158	147	57
(前年比)	2.9	1.6	17.0	9.3	12.3
負債総額	246	257	216	274	264
(前年比)	23.5	23.4	17.3	27.1	209.4



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月に入っても生鮮食品に関しては売上が順調に推移している。12月は暖冬であったが、1月になって気温が下がり、季節商材が好調に売れている(スーパー)

<先行き>

・前年と同様の取り組みでは伸びないため、新たな取り組みを行うことでプラスアルファの売上を目指さなければならない(その他小売[ショッピングセンター])

